

COLUMN — コラム —

「あなたの農場の乾物摂取量 (DMI) は？」

1 “勘” ピューター？

数字だけでは、牛は飼えません。「オレの“勘”ピューターに勝るものはない!」。これも真実です。この業界には“牛飼いセンス”なるものが存在し、優秀な経営者やカウマネージャーが好成績の酪農場を支えています。しかし、そのスキルは元からあるものではなく、本質を客観的に見抜く日々の努力が作り上げたものではないかと思いません。

2 問題の本質はどこにある？

農場で起きている問題は、その主たる原因と結果にタイムラグが存在するケースが多いのが現実です。よくある例えですが、秋に蹄葉炎が多発したとします。その主な原因は、暑熱期の乾物摂取量 (DMI) の低下と選び食い、かため食いによるアシドーシス、起立時間の増加による蹄への負担増加などが考えられます。当然、問題が発生した時点の飼料や栄養状態を調べても問題点が見つかりません。秋になっても向上しない繁殖成績も同じです。解決策は、次の夏に向けての牛舎の暑熱対策や飼料の工夫ということになります。

また、人の印象と実際に起こっていることにはズレがある場合もあります。例えば、「最近、産んだ牛の調子が悪い! 乾乳の飼い方に問題がある?」という訴えを聞いたとします。そこで、乾乳牛群の飼料や牛舎環境の問題と結び付けて考えていると、実は分娩間隔が長い過肥牛による「個体」の問題だったりすることがあります。この根本的な原因の主体は、乾乳牛の「群」ではなく、搾乳牛の飼料や繁殖管理にあることになります。誰もが、最近、強く印象に残ったことを問題にしがちです。しかし、全体を見て、客観的に捉えようと、問題の本質が別にあることが少なくありません。

3 農場の実力をDMIで測る!

農場の実力が最も現れるのが乾物摂取量 (DMI) です。わたしたちが取り組んでいる生産性向上へのアプローチ、例えば、飼料給与方法、暑熱対策や牛床、飼槽などの改善によるカウコンフォート向上の努力は、DMIの向上と安定によってもたらされることが多く、言い方を変えれば、農場での飼養管理技術の水準は、DMIで推定できることになります。

とは言いながら、「あなたの農場のDMIはどれくらい?」という問いに対し、皆さんは即答できるでしょうか。分離給与方式の農家なら、粗飼料のDMIでも結構です。毎日の乳量は分かっても、DMIになるとあいまいになってしまいがちです。

そこで、今回は毎日のDMIを記録することを提案したいと思います。難しく考えずとも、TMRなら残飼の量をショベルのバケツ〇〇杯で記録し、簡単な表で計算すれば推定することができます (表参照)。

4 日々の数字を活かす!

実際に記録してみると、自分の農場の傾向や毎日の変動が分かります。それと乳量のデータが結びつくと様々なことが見えてきます。しばらく続けると、乳量とDMIの強い連動性が分かってきます。飼料設計や飼料の品質も重要ですが、給餌の時間や量、細断の状態、飼料掃きよせの回数やタイミングなど、日々の工夫次第でDMIが向上し、乳量が増えることが実感できると思います。

実践している農場では確実に年々乳量が伸びています。DMIを通して、牧場で起きていることを「見える化」することで、思わぬ盲点に気付くことが多々あります。その“気づき”が大切で



全酪連

技術顧問 永井 秀樹氏

す。人は自ら気付いたことは実践しやすく、他人に言われたことは躊躇しがちです。

さらに、この取組を続けるコツは第三者との検討の場を定期的に持つことです。その場が農場再発見のチャンスになると思います。大きな投資は伴いません。現在の厳しい経営環境を乗り越えるためにも是非やってみてください。

尚、実際に使用している簡単なエクセルシートの様式は、らくのうマザーズおよび全酪連担当者の手元にあります。皆さんの農場に合うように工夫してください。

【経歴】

永井 秀樹 氏

1962年 兵庫県生まれ
 1985年 広島大学生物生産学部卒業
 同年 兵庫県に入庁
 以降、畜産専門の農業改良普及員、
 専門技術員として従事（38年間）
 2023年 兵庫県を定年退職
 同年 全酪連 技術顧問として入会

表 乾物摂取量（DMI）および乳量のエクセル記録シートの様式例

実際に時々計って下さい！

基本設定	バケツ当たり		200	kg	季節ごとに実測										
TMR混合量(頭分)															
測定日	朝		夕		残飼バケツ数	残飼推定重量	残飼水分	TMR設計 DMI kg	搾乳頭数	TMRの混合頭数	実際の DMI	残飼%	12時の気象		
	搾乳 TMR	乾乳	搾乳 TMR	乾乳									温度	湿度	THI
2022/9/1	72	1	62	2	1	200.0kg	50%	25.0kg	138頭	131頭	22.5kg	3.1%	32.0	64.0	83.2
2022/9/2	72	1	64	2	0.5	100.0kg	50%	25.0kg	139頭	133頭	23.0kg	1.5%	33.5	52.0	83.1
2022/9/3	72	1	66	2	1.5	300.0kg	50%	25.0kg	140頭	135頭	22.5kg	4.4%	35.6	46.0	84.6
2022/9/4	72	1	62	2	0	0.0kg	50%	25.0kg	141頭	131頭	22.7kg	0.0%	35.8	41.0	83.8
2022/9/5	72	1	64	2	1	200.0kg	50%	25.0kg	141頭	133頭	22.3kg	3.0%	35.6	42.0	83.7

年月日	Kg換算係数 1.03							備考
	バルク乳量 (kg)	前日差 (%)	搾乳頭数	搾乳成績		搾乳牛当たり乳量 (kg)	乾乳頭数	
				バケツ頭数	うちバケツのうち乳房炎牛			
今年目標	4000%	—	135頭	5頭	0頭	33.0kg	55頭	
2022/9/1	4136%	156%	138頭	3頭	1頭	31.6kg	57頭	備考には気がついたこと、変わったことをメモしておきます。
2022/9/2	4134%	-1%	139頭	3頭	0頭	31.3kg	57頭	
2022/9/3	4100%	-34%	140頭	3頭	0頭	30.8kg	57頭	
2022/9/4	4207%	107%	141頭	2頭	0頭	31.1kg	56頭	
2022/9/5	4088%	-119%	141頭	2頭	0頭	30.3kg	56頭	

熊本県乳用牛群検定組合第22回通常総会

去る令和5年7月7日にKKRホテル熊本にて、熊本県乳用牛群検定組合第22回通常総会が開催されました。



表彰式

通常総会に先立ち、令和4年度の牛群検定成績及び体細胞年間成績（右記のとおり）の表彰式が開催されました。



内ヶ島 組合長



堀 議長

議長に堀太氏（火の国酪農協）が選出され、令和4年度事業報告及び収支決算承認の件について、令和5年度事業計画及び収支予算（案）承認の件について、会費及び頭数割り料金・負担金等徴収（案）について、新役員選出（案）の件について、全4議案が審議され、原案通り承認されました。また、新役員方による協議の結果、執行部体制（右記のとおり）も決定されました。

通常総会后、大林哲氏（北海道農業共済組合十勝統括センター 鹿追家畜診療所 所長）を講師としてお招きし、「データから我が家の乳房炎を見直そう！」と題して記念講演を開催しました。



総会風景



記念講演風景

○牛群検定成績優秀農家表彰

【牛群検定成績の部】

順位	年間成績	
1位	(株) 洞田貫牧場 ☆	(9403121)
2位	(株) 宮本牧場	(9408014)
3位	風間 健太	(9409078)

☆は、ロボット検定農家

【体細胞の部】

順位	年間成績	
1位	村田 輝幸	(9407053)
2位	林田 敏之	(9407095)
3位	南稜高等学校	(9407175)

○新執行部体制



山口新組合長



新執行部

氏名	所属	役職
石本 幸一	熊本酪農協	
齋藤 潤也	JA菊池（旭志）	副組合長
渡邊 里志	大阿蘇酪農協	副組合長
永松 克美	JA菊池（泗水）	
川俣 雄一	熊本酪農協	
谷 孝節	鹿本酪農協	監事
宮原 千明	ホワイト酪農協	
中村 茂富	玉名酪農協	
堀 太	火の国酪農協	代表監事
福島 秀明	JA宇城（松橋）	
高村 武志	JA阿蘇（小国郷）	
山口 孜朗	JA上益城（清和）	組合長
春口 寿男	JA熊本市	

第47回熊本県乳牛改良同志会通常総会



西本 会長

去る、7月4日(火)、熊本市中央区のホテルメルパルク熊本で熊本県乳牛改良同志会(西本 道靖会長)の第47回通常総会が開催されました。

冒頭、西本道靖会長が挨拶。その後、らくのうマザーズ 小池泰隆常務の挨拶、九州農政局 川端秀則農政調整官の来賓挨拶を頂きました。



清水 議長

清水大介氏(JA菊池)を議長に選任し、令和4年度事業報告及び収支決算承認の件、令和5年度事業計画及び収支予算(案)承認の件、令和5年度会費及び徴収方法(案)決定の件の3議案について審



嶋田 氏

議され、いずれも原案通り承認されました。

総会終了後、全国酪農業協同組合連合会酪農生産指導室 副審査役 嶋田健介氏を講師に迎え「哺育管理のポイントについて」と題し、最新の哺育管理の技術について

記念講演が行われ、出席者は熱心に聞き入っていました。

また、カウオブザイヤー、熊本県総合指数、生涯生産乳量、高能力牛群農家、審査成績優秀農家、高能力牛、体型審査好体型牛の報告がなされ、令和4年度カウオブザイヤーは、林田敏之氏(球磨酪農協)所有のスターク バーディー B モントレラ ET、準カウオブザイヤーには、犬童直行氏(球磨酪農協)所有のヤママイルド ロニー ブラウラー クリスが選ばれました。



総会風景



記念講演

「熊本県酪農政治連盟 第59回通常大会」

一致団結し、酪農危機の打破を！

熊本県酪農政治連盟の第59回通常大会（総会）が7月10日（月）熊本市のホテルキャッスルで開催されました。



会場全景



隈部 委員長

通常大会では隈部洋委員長から昨年度の政治活動報告とともに、酪農に対する行政施策へのお礼を述べ、「引き続き酪農業の安定・発展に向けた施策の立案と予算獲得のために、関係機関・団体とも協調し、一致団結し多岐にわたる活動を展開していく」との挨拶がありました。



前川 自民党県連会長

続いて来賓祝辞では自民党熊本県連会長で熊本県議会自民党酪政会の前川収会長より、「酪農をモデルに価格の安定制度について国へ意見書を提出している。様々な酪農に対する制度改革とともに適正価格での販売についても政治



佐藤 日本酪政連委員長

的な部分で後押ししていく」との挨拶がありました。

また日本酪政連佐藤哲委員長からは「新型コロナウイルスの拡大やロシアのウクライナ侵攻により、酪農環境は非常に厳しい状況にある。このような中、様々な政策要求などの政治活動とともに、国内での粗飼料



森 議長(JA菊池)

活用促進や高校生への牛乳提供など消費拡大にも日本酪政連として積極的に活動していく」との挨拶がありました。

その後の議事では、菊池地域農業協同組合の森浩一郎委員を議長に選任し、令和4年度運動報告並びに収支決算承認の件、令和5年度運動方針並びに収支予算（案）承認の件、令和5年度会費の賦課並びに徴収方法決定の件の、3議案すべて原案通り承認されました。



中坪 調整官

なお、当日は通常大会前に全体委員会が開催され、農林水産省畜産局牛乳製品課、中坪康之乳製品調整官より「酪農をめぐる情勢について」と題した記念講演を頂きました。講演では①飼料価格の動向、酪農行政施策等、②生乳の需給ギャップの推移、③消費拡大・輸出拡大について等の説明がありました。

令和5年度（前期）牛群審査・体型調査報告
熊本県の審査概況について
 一般社団法人 日本ホルスタイン登録協会 審査委員 梶沢 洋二

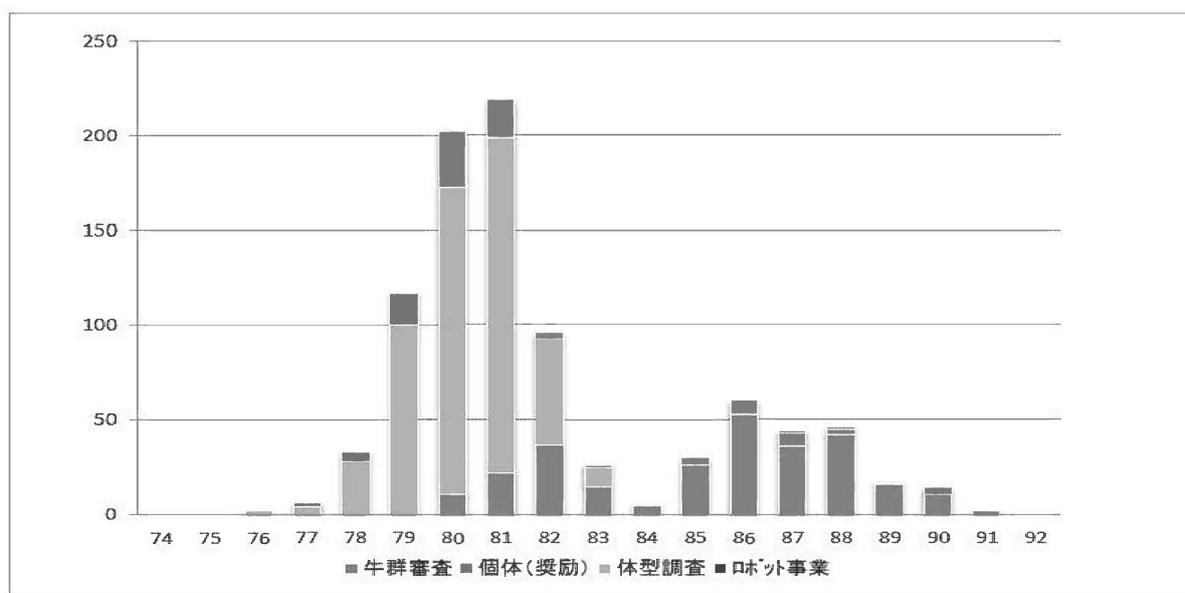
去る5月22日から6月16日まで約1ヶ月間にわたり牛群審査並びに体型調査を実施しました。前回は令和3年の前期であったことから2年ぶり5度目の訪問となりました。期間中大変お世話になりました生産者の皆様並びに、らくのうマザーズの方々をはじめ関係機関の皆様方には心より感謝申し上げます。

資材や飼料価格高騰の大変厳しい状況、また、新型コロナウイルス感染の影響で、まだまだ対策に予断を許さない状況でも、快くご協力いただきましたことに重ねて厚くお礼申し上げます。

さて、今期牛群審査・体型調査では92戸の生産者を訪問し、牛群審査22戸276頭、奨励審査9戸25頭、体型調査61戸539頭、ロボット適合性調査8戸79頭の合計919頭の審査・調査を実施することができました。今回の審査実施概況は「表1」のとおりです。前年同期（4年前期）と比較しますと、牛群審査は88頭減少、奨励審査は5頭増加、体型調査は49頭減少、ロボット適合性調査は29頭増加となりました。牧草の刈取り作業等で、急遽中止した農家さんもありますが、今期は例年より若干減少した実績となりました。

表1 令和5年度（前期）熊本県審査得点分布

	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	計	平均
牛群審査							11	22	37	15	5	26	53	36	42	16	11	2		276	85.3
個体(奨励)												4	7	7	3	1	3			25	87.0
体型調査			2	4	28	100	162	177	56	10										539	80.3
ロボット事業				2	5	17	29	20	3	1				1	1					79	80.1
計	0	0	2	6	33	117	202	219	96	26	5	30	60	44	46	17	14	2	0	919	82.0



◆平均得点の結果は例年並み

今回の審査得点については、牛群審査で85.3点(+0.2)、奨励審査で87.0(+0.6)、体型調査で80.3(+0.3)、ロボット適合性調査で80.1(-1.2)という結果でした。※()は前年前期と比較

また、熊本県における審査・調査の実施状況を示しました。(表2)昨年度は後期のみの実施であったことから、例年より頭数も少なく、泌乳後期など良い時期に審査が実施できておりませんでした。平均得点は概ね例年通りで終わり、今年度もまだ前期分でしたが、概ね例年通りでした。令和元年度から5年間の傾向も見てみますと、多少の凹凸はあるものの平均得点は概ね毎年同じ状況にあることが解ります。

今回訪問しました牧場の牛群につきまして、乳

器構造の改良は飛躍的であり、特に初産牛における後乳房の付着の高さや幅、乳房底面の高さは概ね好ましい状態にあったと思います。しかしながら、尻の構造において腰角と坐骨が水平または高いもの、尾根が極端に低く陰門等に蓋をするような形状にあるものが散見されましたことは、惜しまれる点であり、尻については繁殖性に関連する部位であることから、今後の改良に心掛けて欲しいと思います。また、機能的生産寿命と深い関係にある肢蹄におきましては極端な曲飛、飛節の腫れや繋の弱いもの等が散見されました。肢蹄は体型形質における遺伝率が他形質に比べ低いため、牛床の改善や削蹄等管理に心掛けていただきたいと思います。

表2 熊本県における審査・調査実施状況

年度	牛 群 審 査				体 型 調 査						審査・調査 合計頭数	平均 得点	
	戸数	頭数	奨励	合計	戸数	材料牛	同期牛	歩様	ロボット	合計			
01年度	前期	35	442	37	479	74	127	216	395		738	1217	81.9
	後期	34	424	37	461	106	209	531	224	181	1145	1606	82.1
	合計	69	866	74	940	180	336	747	619	181	1883	2823	82.0
02年度	前期				0						0	0	
	後期	38	609	13	622	84	182	807	0	53	1042	1664	82.0
	合計	38	609	13	622	84	182	807	0	53	1042	1664	82.0
03年度	前期	28	388	24	412	68	186	435	0	62	683	1095	81.7
	後期	34	411	22	433	50	98	316	0	113	527	960	82.7
	合計	62	799	46	845	118	284	751	0	175	1210	2055	82.2
04年度	前期	29	364	20	384	65	138	450	0	50	638	1022	82.0
	後期	25	305	33	338	71	136	324	0	101	561	899	82.0
	合計	54	669	53	722	136	274	774	0	151	1199	1921	82.0
05年度	前期	22	276	25	301	61	139	400	0	79	618	919	82.0
	後期				0						0	0	
	合計	22	276	25	301	61	139	400	0	79	618	919	82.0

※戸数は延べ戸数



MOTHER'S

◆高得点牛（E X）は16頭

今回新たにエクセレント（90点以上）と評価した牛は12頭、得点更新（2E・3E）4頭の合計16頭（表3）となりました。いずれの牛も骨格構

造に優れ、乳器については、後乳房の付着の高さや強さがあり、乳器の形状に優れた牛が多く見られました。これも、体型改良にご尽力いただいた結果だと思われま

表3

高 得 点 牛				※ 90点以上			
名 号	登録番号	生年月日	父略符号	所有者 住 所 氏 名	今回得点 (体貌骨格)	審査月齢 肢蹄 乳用強健性 乳器)	産次
OK ウッス エアロ フラワー	1410120708	H26.05.11	7H10506	菊池市 岩根 正始	91 (90	3E 90 91	9-00 5産 91)
DFD TMF アルト チップ	1346448419	H26.02.25	7H10920	人吉市 (有)大王牧場	91 (90	3E 90 91	9-03 6産 91)
ハイクレスト チップ マオ	1346448419	H30.12.02	7H10920	菊池市 芹川 恵介	90 (90	4-05 87 92	3産 90)
OKD デベウツトアマン ユウ ET	864346047	H30.07.09	200H6480	玉名郡和水町 (有)大城戸牧場	90 (89	4-11 88 89	3産 91)
インマニル チップ パーンス	1447006020	H30.01.05	7H10920	菊池市 本田 真人	90 (88	5-04 88 91	4産 91)
HND ウツト スター	1529138595	H29.11.30	1H10473	菊池市 本田 真人	90 (90	5-06 88 91	4産 90)
キー プルマスター アレス	1535899718	H29.07.10	250H1009	合志市 松島 太一	90 (89	5-10 87 91	4産 91)
スノーボール スターゲイザールト	1509075919	H29.01.13	200H3771	菊池市 松岡 浩幸	90 (89	6-05 88 91	4産 90)
コムスター シト ラタリー ET	1551286677	H28.12.28	200H2137	玉名郡和水町 (株)井上牧場	90 (89	6-05 87 90	4産 91)
キグツチ グレントン タブ	1516953057	H28.08.09	1H10200	菊池市 永田 大貴	90 (90	6-10 89 91	5産 89)
ハイセクト プラウドニツク ビュレラ	1517075352	H28.01.08	7H10999	菊池市 (株)ハイセクト	90 (90	7-04 88 92	5産 89)
パーフェクション スプー ル ショディ	1511652887	H27.12.24	7H10723	菊池市 永田 大貴	90 (90	7-05 88 92	5産 89)
モラント ダース サバーシ	1355301040	H27.11.12	JP5H54811	合志市 松島 太一	90 (87	7-06 90 93	5産 91)
DFD パラダイス キャンピオン	1488349834	H27.11.07	29H16153	人吉市 (有)大王牧場	90 (89	7-07 87 91	6産 91)
ヒルズ スプー ル マアリー	1508383336	H27.09.29	7H10723	菊池市 松岡 明彦	90 (90	7-08 88 92	6産 89)
ウイザーナイト Dトライセコ RC	1475951712	H26.09.02	94H13666	合志市 後藤 勝	90 (90	8-08 86 91	6産 91)

◆結びに

審査委員になり、今年で9年目になり、今回で3回目の審査を担当させていただきました。前回は、コロナ禍の影響で前期ではあったものの7月から8月の実施という事で、真夏の暑い時期を経験したこともあり、今回は、前回よりは過ごしやすい日々だったと思います。期間中に梅雨入りをしていましたが、雨に降られたのは3日間程度と、同行して頂いた方々に晴れ男さん・晴れ女さんが居たからでしょうか？話はそれでしたが、今回も無事に全日程を乗り切ることができ、大変あ

りがとうございました。

前回は感じましたが、進んでいると言え、まだまだ復興・復旧が必要な地域もある大変な状況のなか、また、第5類扱いとなった新型コロナについても予断を許さない状況のなか、さらには以前から続いている資材価格・飼料価格の高騰で大変厳しい状況のなか、生産者の皆様には、とても温かく迎えて頂きましたことを、この場をお借りして重ねて感謝申し上げます。今後、熊本県の酪農が益々発展していきますよう心よりご祈念申し上げます。報告とします。ありがとうございました。

検定表で繁殖管理

生産本部指導部技術課 南 僚

今回は「検定表で繁殖管理をしましょう。」というご提案をしました。

今回は検定表を繁殖検診でどのように使用し、さらに繁殖成績をどのように評価することができるのか実例をもってご案内します。

私はある牧場の飼養管理指導業務で繁殖に関して携わり、その際も牛群検定を大いに活用しました。2年かかっておりますが、結果としては搾乳頭数の増加（牛の導入はありません）、搾乳日数の短縮により一日出荷乳量が約2トン増量しました（表1）。

もちろん、餌や飼養環境など様々な分野を改善したことによる賜物であることも間違いありませんが、私がある一端の繁殖に携わったものとして検診に絞ったお話しをしたいと思っております。なお、全ての牧場がこのように大幅に増収できるとは限りません。しかし、繁殖に於いて如何に基礎、原則、ルーティーンが重要であるのか考えて頂けたらと思っております。

まず、その牧場に数回通って問題点を探す訳ですが、特筆すべき問題点としてそもそも検診を受けるべき牛が検診を受けていないという点でした。そこで、検診する牛のリストを修正しました。R3.6月号でもご説明しました通り、少なくとも【妊娠鑑定】、【フレッシュチェック】、【乾乳チェック】、【発情不明】の4項目に該当する牛をもれなくピックアップしなくてははいけません。

全項目漏れなく！と言われると面倒くさく感じますが、逆を言えば【受胎した牛】、【分娩して間もない】、【授精直後】、【繁殖に供さない牛】を削除してしまえば検診リストの完成です。これは前回（R4.7月号）ご案内したように検定表をエクセルで処理すればあっという間に作成できます。また、ここからが検定表の強みで、個体別の重要な情報を付け加えることができます。例えば産次、最終分娩、乳量、前月比乳量、体細胞数、受精回数などで、この他にも前回（さらに言えば前々回）の処置内容も手入力でエクセルシートに記入できます。

次に、検診すべき牛とその付加情報が揃ったら

図1

個体識別番号	産次	分娩日	搾乳日数	標準乳量	乳量	授精回数	最終授精日	処置	
00001	1234	1 2	2022/12/27	26	26.9	30.6	0	フレッシュチェック	
00002	1235	2 3	2022/12/08	45	21.8	27.5	0	単発	
00003	1236	3 2	2022/12/06	47	34.5	40.1	0		
00004	1237	4 2	2022/11/18	65	33.1	38.0	0		
00005	1238	5 3	2022/11/07	76	33.2	39.5	0		
00006	1239	6 3	2022/10/27	87	20.4	24.5	0		
00007	1240	7 1	2022/10/14	100	29.8	27.8	1		2022/12/26
00008	1241	8 1	2022/09/26	118	33.4	28.9	0		
00009	1242	9 1	2022/07/17	189	22.0	18.7	2	2022/12/12	
00010	1243	0 2	2022/06/21	215	30.9	26.3	4	2022/12/12	シダープログラム + 追い移植
00011	1244	1 1	2022/03/13	315	26.5	17.7	4	2022/12/26	
00012	1245	2 2	2021/12/29	389	46.9	31.6	5	2022/12/26	

表1

	目標値	R3年7月	R3年12月	R5年6月
出荷乳量		3518kg/日	3610kg/日	5486kg/日
搾乳頭数		123頭	137頭	181頭
分娩間隔	380	485	506	462
空胎日数	100	224	264	152
搾乳日数	160	258	246	223
JMR	20	104	77	41

搾乳日数にしたがってどのような処置をするのかを決めます。私はこれをプロトコールと言っています。例えば、搾乳日数40日前後はフレッシュチェック、60～160日はホルモン治療やシダー挿入、160～280日はプログラム、それ以降は追い移植。といった“ある程度決まった処置をする原則”のことです。また、これは各牧場で内容が変わると思います。授精回数の多い牧場なら一定回数以上の授精でヨード注入する必要があるでしょうし、繁殖が順調な牧場は目標とする平均搾乳日数が160日ですから、上述よりも早い段階でプログラムを処置したりすることになるかもしれません。

図1のような検診リストを毎回作成し、事前に牧場と共有していく。このような地味なことからスタートです。繁殖成績を飛躍的に改善する特效薬は無いと言えます。ある一定の規則をもって淡々と、長期間にわたって我慢強く、継続・反復する以外ないと思います。

ここまで作成して、いざ当日の検診です。当日の検診は、過去の処置内容に注意しながら（複数回シダーを入れている、体細胞が極めて高い、卵胞ウェーブからショートシンクは回避 など）プロトコールに当てはめていいか検討しながら進め

ていきます。診断は獣医師の仕事ですので任せることにはなりますが、検診に立ち会う方は付加情報を上手く獣医師に伝えることが肝心です。

では、以上のような検診を繰り返してきたところで牛群の繁殖成績を評価しましょう。現在採用しているプロトコールに修正が必要かもしれないからです。検定表で見られる繁殖の評価項目は重要なものとして平均分娩間隔、平均空胎日数、平均搾乳日数が挙げられると思います。これらは極めて重要で分かりやすい評価法ですが、それぞれ弱点があることを知っておいてください。

一度の文章で説明するには限界がありますので、今回はそれぞれの評価法を知っていることを前提に、弱点と言われることを簡単にご説明するに留めたいと思います。

《平均分娩間隔》

- ・初産牛にはない
- ・過去の繁殖成績である（長期未受胎牛が努力して受胎しても次乳期中は成績が悪いまま）

《平均空胎日数》

- ・受胎した牛のみが計上される（空胎の牛を評価できない）

《平均搾乳日数》

- ・搾乳の日数を追いかけているだけで妊娠、空



胎を評価しているものではない

そこで、牛群検定表に限った場合活用できるのがJMRです。詳細は割愛しますが、JMRの良いところは、空胎の牛に分娩後日数に従ってペナルティを付加し、一方で受胎した牛はペナルティをゼロとする点です。また、牧場の経済損失を概算として算出することも可能です。詳細は家畜改良事業団 牛群検定の見方 17.繁殖遅延による経済損失 (JMRの利用)

(<http://liaj.lin.gr.jp/japanese/kentei/lms/liaj13105.pdf>) を参照してください。

では実際に評価をしてみましょう。表を見てください。R 3. 7月とR 3. 12月の空胎日数とJMRについて、搾乳日数は224から264へ上昇し悪化しています。一方、JMRは104から77へ減少し改善しています。この両者の増減は現在のプロトコル・繁殖検診のやり方は有効で効果を出していると考えて良いのでしょうか。

結論から言うと私は、有効かつ効果が出ていると思います。JMRは減少しているので良いかと思いますが、空胎日数については“受胎した牛が計上される”ということを思い出してください。例えるなら、あなたがまだ受験していないテストは0点でもありません。そして平均点に計上されることはありません。つまり、あなたが受験して初めて点数が決まり、平均点として計上されます。平均点10点のテストをあなたが受験し、100

点だった時、その科目の平均点は上昇してしまいますよね。そのように、空胎日数が上昇したのはむしろ長期未受胎の牛がようやく受胎し、平均値を上昇させたからかもしれません。事実、搾乳頭数と出荷乳量は増えていますので現在のやり方を継続していくこととなりました。

R 3. 7月から約2年後の現在の成績も表に載せています。順調に成績も改善してきましたのでプロトコルをややタイトなものに変更し更に改善を図りたいと思っています。

今回は実例をもって検定表の繁殖に関する利用法をご提案しました。繁殖管理には様々なツールがあります。ですが基本的にはどのツールを使っても繁殖管理は似たものだと思います。牛に検診を漏れなく受けさせ、淡々と検診を繰り返し、繁殖成績を評価する。このルーティーンを習慣とすることが重要かと思います。

【ちなみに】

平均分娩間隔、平均空胎日数、平均搾乳日数、JMRは“平均値”であることに注意してください。詳しくは割愛しますが正規分布しない点や多数の導入や廃用（繁殖不良）で実際より成績が向上している様に見える点に留意する必要があります。

可能であれば妊娠率を使った方が良いですが、熊本県の検定表を使うことに限った場合、上述のような使い方が有効ではないかと思います。

まだ間に合う！ 第16回全日本ホルスタイン共進会への出品！

営農指導課 奥村 洋

4月に開催された全国ホルスタイン改良協議会主催の第10回全日本ブラックアンドホワイトショウは、コロナで中止となった第15回全日本ホルスタイン共進会九州沖縄ブロック大会後、5年ぶりの全国規模の共進会となったことは乳牛改良を志す酪農家にとっては、厳しい酪農情勢の中の一筋の希望の光となりました。

そして、2年後の令和7年10月25日（土）・26（日）、北海道勇払郡安平町の北海道ホルスタイン共進会会場において、全国から400頭（ホルスタイン種368頭、ジャージ種32頭）を一堂に会し、第16回全日本ホルスタイン共進会が開催されることは既にご承知のことと思います。そのことに伴い、日本ホルスタイン登録協会から開催に向けて6月上旬に出品割当頭数案の通知がありました。出品頭数の割当はブロック毎となっており、九州ブロックは42頭の割当てとなっていて、中止となった前回の九州・沖縄ブロック大会が、72頭でしたので大幅に減少したということになりました。最終的な出品頭数の割当は各ブロックの意向を聞いた上で来年令和6年6月に決定することです。

そこで第16回北海道全共への出品は、ホルスタ

イン種雌牛経産牛の部は既に生産されているため無理なのですが、分娩がこれからの未經産牛の部は出品区分が1部から6部まであり、その出品牛資格は自家産牛で母牛が検定成績証明申込中または証明済みであること、ただし、母牛が未經産の場合は、出品牛がゲノミック成績を有し、かつ祖母が検定成績証明済みのものとなっています。各部の区分は、別表1の様になっており、令和6年生まれの牛が対象となるため、第1部、第2部、第3部、第4部の出品牛はこれからの授精の状況次第では、まだ全共出品に間に合うものとなっています。

その様な中、本会が取り組んでいる全共対策の一環事業である「ホルスタイン種優良雌牛生産対策事業」を利用されてはいかがでしょうか。この事業は、国内外の優良な乳用種性判別受精の利用により雌牛を生産することが目的となっており、共進会へ出品意欲のある酪農家を応援する事業となっています。是非この受精卵事業に取り組まれて第16回全日本ホルスタイン共進会の狭き門に挑戦してください。また、出品資格のゲノミック成績取得に必要なゲノム検査も取り扱っていますので問い合わせいただきますようお願いします。

別表 1

区 分		生年月日の範囲		受 精 日
第1部	後代検定	10月以上12月未満	令和6年10月1日～令和6年11月30日	令和5年12月26日～令和6年2月24日
第2部		12月以上14月未満	令和6年8月1日～令和6年9月30日	令和5年10月26日～令和5年12月25日
第3部		14月以上16月未満	令和6年6月1日～令和6年7月31日	令和5年8月26日～令和5年10月25日
第4部		16月以上18月未満	令和6年4月1日～令和6年5月31日	令和5年6月26日～令和5年8月25日



酪友フォーラム2023

Challenge to the Next Stage ～酪友とともに50年次の時代へ～
～九州代表として村上久幸氏が出場～

酪友フォーラム2023が7月13日(木)、札幌パークホテル(北海道札幌市)で開催され、例年と違い3部構成で大会が開催され、約300名の参加者が集まりました。

第1部では過去の発表者による現況報告があり九州代表として村上久幸氏(JA菊池 泗水中央支所)が発表されました。2001年発表当時から現在までの規模拡大への歩みについて、畜産クラスター事業を活用した牛舎改築や搾乳ロボット導入などの施設整備、自給飼料面積の拡大、また後継者の就農後の自身の思い等について発表をされました。村上氏自身の目指す経営理念のもと牧場経営、後継者育成に力を入れていることが分かり、会場の参加者の刺激となったことでしょう。

第2部では地域酪農青年女性会議の活動報告があり、多くの地区で「父の日に牛乳を送ろうキャンペーン」を行っていました。熊本県で始めたこの活動が全国に広がっており、九州会議の発表でも熊本県の取り組みが取り上げられ、熊本の活動が評価されているのを改めて実感することができました。

第3部では、酪農に関するラジオ番組を持つ石川實氏をコーディネーターとし、酪農家3名(九州会議から村上氏登壇)、(一社)Jミルク 内橋

専務理事、(一社)中央会議 寺田事務局長の5名によるパネルディスカッションが行われました。酪農業を行う上で一番うれしかったこと、一番大変だったこと等、今後の目標をテーマに行われ、会場の参加者に対して実施したアンケートの意見も発表されたりと大いに盛り上がりを見せ、酪農家同士の意見の共有を行える良い機会となりました。

その他、大会会場では「らくのうこどもギャラリー」の表彰式が行われ、全国138点の作品の中から、熊本県の穴見祥太郎君の「ごはんを食べるホルスタインと乳しぼりするボク」が特選に選ばれ、親御さんと一緒に参加されました。他にも、入選 成松芽衣子さん、ファミリー賞 大嶋万葉さん、あすなろ賞 西村壮平さんが選ばれるなど、熊本県で多くの作品が入選されて、来年も期待が高まるようです。

最後になりますが、今回の大会で全国の優れた取り組みや、個性豊かな酪農経営を学べ、全国の酪友と研鑽して自身の酪農へ刺激をもたらす、すばらしい機会になったのではないのでしょうか。来年は、愛知県で第51回全国酪農発表大会が開催される予定です。多くの方の参加をお待ちしております。



熊本からの参加者

村上 久幸氏

穴見 祥太郎君とご家族